

# 北東アジアの緊張を作り出す米韓連合軍事訓練を中断しろ!

米韓連合訓練が8月18日から実施される予定だ。もともと8月16日から実施する予定だったが、訓練に参加する予定の韓国軍幹部が新型コロナウイルスの陽性であることが判明して二日間延期した。今回の訓練は、戦時作戦権の転換のために、将来の連合軍司令部の完全運用能力(FOC)を検証する訓練だと言われているが、実際は、朝鮮民主主義人民共和国に対する斬首作戦を含めた先制攻撃訓練である作戦計画 5015 だ。

戦時作戦権は、1950年の朝鮮戦争当時、李承晩(イ・スンマン)政権がマッカーサー司令官に委譲した。

従って、1953年7月27日の休戦協定と同時に韓国軍へ返さなければならなかった。2003年に入り、盧武鉉(ノ・ムヒョン)政権時に戦時作戦権の還収が合意されたが、韓国の以降の保守政権と軍部、そして米国の反対で70年間返還されずにいる。

韓国が戦時作戦権を独自に行使できるか否かを検証するために米韓軍事訓練を行うという主張はとんでもないものだ。1948年に国連が認定し、独自の憲法を持つ韓国政府と軍統帥権者の大統領が戦時作戦権を持ってないのであれば、主権を有する国家とは言えない。たとえ戦時作戦権を韓国軍が取り戻したとしても、米韓相互防衛条約、駐留軍地位協定(SOFA)など不公平な米韓同盟の下で将来の連合軍司令部の作戦権を韓国軍が完全に有することは困難だろう。

新型コロナウイルスの感染が広がり続けている状況で大規模な兵力が移動する軍事訓練を行うということ自体がそもそも問題だ。より大きな問題は、朝鮮半島の非核化のための朝米交渉が膠着状態に陥っている状況で攻撃的な米韓軍事訓練を強行することは、4.27板門店(パンムンジヨム)宣言と9.19平壤(ピョンヤン)共同宣言および南北間軍事合意を破綻させ、朝鮮半島の緊張を高めるだろう。

朝鮮半島は休戦ラインを中心に米韓と共和国だけが対立している地域ではない。北東アジア地域で共和国・中国・ロシアと韓国・米国・日本が対立する地域であるとともに、政治・経済・軍事的に地球規模の新冷戦の雰囲気が高まっている地域だ。もし朝鮮半島で局地戦が発生でもすれば、帝国主義世界戦争に飛び火する可能性も排除できない。

途方もない軍事費を投じて戦争の練習を行うことは、労働者民衆の生活をますます厳しくするはずだ。国連を中心に地球全体の新型コロナウイルスのパンデミックと気候危機、そして経済恐慌に共同対応すべき時期であるだけになおさら、帝国主義の侵略と支配を強化する大規模な米韓連合軍事訓練を直ちに中断させなければならない。戦争は人の命の殺傷と破壊という災難があるだけだ。帝国主義戦争の火遊びを今すぐ止めろ!

2020年8月17日  
AWC 韓国委員会